

# —第41回市政—新市民会議— 協議内容要旨等を公開します

平成22年3月19日に第41回市政—新市民会議が開催されました。  
以下にその内容の要旨を公開いたします。

## 第41回市政—新市民会議

### 1. 市長あいさつ

### 2. 市政—新プログラム 完結編 について

市政—新プログラム-完結編-の策定について

市政—新プログラム-完結編-取組項目推進計画について

### 3. その他

## 第4 1回市政一新市民会議議事要旨

---

1. 開催日時 平成22年3月19日(金曜日) 13時30分～14時40分

2. 場 所 名張市役所2階 庁議室

3. 出席者 市政一新市民会議

会 長	中川 幾郎	学識経験者
委 員	伊藤 英次	関係団体
〃	岩崎 恭彦	学識経験者
〃	梅本 俊子	公募委員
〃	菅井 杏	関係団体
〃	豊岡 千代子	関係団体
〃	中山 登貴	関係団体
〃	溝延 克彦	公募委員
(欠席者)	〃 富山 修	関係団体
	〃 室谷 芳彦	関係団体

(50音順・敬称略)

名張市長	亀井 利克	
企画財政部長	山本 順仁	
行政改革推進室長	橋本 裕徳	
行政改革推進室	今村 典義	室員

### 4. 内容

#### 1. 市長あいさつ

#### 2. 市政一新プログラム 完結編 について

市政一新プログラム-完結編-の策定について

市政一新プログラム-完結編-取組項目推進計画について

#### 3. その他

## 第41回市政一新市民会議内容要旨

### 1. 市長あいさつ

お忙しい中お繰り合わせをいただき、市政一新市民会議にご参集いただきました皆様方に衷心よりお礼を申し上げます。

平成14年の4月に市長に就任し、長期債務が550億円という状況で、その年の9月に財政非常事態宣言を出しました。市政一新プログラムと財政健全化緊急対策のふたつのプログラムで改革していく、それが第一次の市政一新プログラムの策定の時でした。今で言う事業仕分けですが、名張市においては平成14年度から行い、そのおかげで三位一体の改革の山も乗り越え、財政の非常事態も乗り越えてくることができました。あと3年でほぼ財政再建の分野は果たせるところまでできました。平成25年度から単年度黒字になっていくところまでできましたが、この間も大変お世話をお掛けしてきました。格段のご高配を賜り、この間、住民自治の熟度が、かなり増してきました。市民力、名張力が、パワーアップされ、これは、都市内分権、地域内分権を進めさせていただく中で、そういう力がついてきたと思っております。

市政一新プログラムも第3次計画、つまりは完結編をお願いしてまいりましたが、今日ここでご決定をいただきましたら、本部会を持ち、平成22年度からの4年間、重要な活動を展開していきたいと思っております。また、そのご指導なりご高配を賜ればと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございます。

### 2. 市政一新プログラム - 完結編 - について

市政一新プログラム - 完結編 - の策定について

事務局より、資料にもとづき策定経過、プログラム概要を説明。

会長

個人的な意見かもしれませんが、感想を申し上げます。古い話ですが、私が現伊賀市との合併協議会の委員であることが、名張市とご縁ができるきっかけとなりました。その時、名張市は、住民投票の結果を市長は尊重され、協議会より脱退されました。

しかし、大変危機的な財政状況であり、合併特例債もしくは地方交付税交付金の算定特例期間を使って、その状況を再生させるという試みは脱退により頓挫しますが、勇気をもって市長が決断されました。この建て直しは、容易なことではないと、背中から汗が出る思いでした。

その後、この建て直しに間接ながら協力することとなり、1次からの改革に耐え、ここまでこられたと感慨無量です。しかし、まだ危機は脱していると思いません。特に、病院問題は、名張市にとっては生命線ですが、同時に命取りになるという性格を持った課題で、それを抱えています。そういう意味では、行政だけの力では乗り切れない時期を、ここに内包していると思っております。

とは言いながら、この3回に渡る改革プログラムを、行政内部職員の協力と、市民力、地域力というかたちで、本当にまとめあげられたと感心しています。

市民力は、市民公益活動をもっと盛んにするという開発の余地があります。地域力は、名張市地域づくり委員会、区長制度の改革、自治会の統合という様々な困難な課題を3年ほどかけて整理ができたと思います。残るは、持続可能な発展という言葉がありますが、そこに持ち込むための3次改革プランができたわけです。そういう意味では、市民と行政の団結の成果品だと思います。

おそらくこのプログラムをご覧になった方々、議会も文句をおっしゃることはないと思います。当時の危機感を共有していない方々は、要求陳情型のご意見もあるかも知れませんが、そのよう事を言っている段階ではありません。それよりも、もっと生産、総力をあげて次のステップに入らないといけません。持続可能な発展に持つていくためには、エネルギーの持続ではありません。持続可能な発展は、様々な人々が、お互いがお互いを支えあい、次の世代におくっていけるというシステムで、主役は人間です。そのような仕組みに、ようやく到達できるところまで来たという印象です。

第1次改革がコストダウン改革、第2次改革がパフォーマンス改革でした。第3次改革は、将来のために役に立つこと、今の私達が贅沢し、甘え、文句ばかり言うことをやめ、本当に未来に残せる名張を残そうというアウトカム改革に入ったと思います。

そういう観点から、この市民会議もプログラムの推進を見守り、応援していきたいと思っています。以上です。

#### 市政一新プログラム - 完結編 - 取組項目推進計画について

会長

市政一新プログラム - 完結編 - 取組項目推進計画（未定稿）について、それぞれのご意見をお願いしたい。

事務局より、資料の概要説明。

会長

全体で33項目ある。それぞれ皆様方のご意見をお願いしたい。

委員

「市民参画の推進」について、今の考えと、市民の考えにズレがあるのではないか。例えば、何千発という大きな花火大会があるなかで、各自治会個別でも実施している。それらを集約するような考えも取り入れれば、何か新しい市民力というものになるかと思う。

このプログラムが終わる頃、素晴らしい名張市になっていることを期待する。

委員

今回、個々の取組方策で重点項目を掲げたことは、計画推進のメリハリになる。この重点項目の推進計画について、現段階では明確ではない。重点項目及びその他の施策の関連性を明確にし、推進計画に落とし込むのが良いと思う。

もうひとつ、個々の施策と連動関係にある施策がある。例えば、資料P11の4(1) 予算

編成の仕組み改善について、行政評価及び考査制度と連動した予算編成の取組推進となっており、今回の施策の中で、行政評価の取組も含まれているため、連動関係を意識する必要がある。個々の施策の連動関係、関係性を精査し、戦略的な計画策定、計画推進が必要と思う。

#### 委員

「地域ビジョンの策定促進」について、市民が自ら動くことを計画する方法、金銭ではないインセンティブが働く仕組みが必要と思う。

#### 委員

「地域づくり活動と市民公益活動等の連携促進」の市民交流センターの機能充実について、センターを知らない方もたくさんいる。認知度を調査し、活用を促進するような取組が必要と思う。

#### 会長

各センターの認知度を上げ、センターを市民に浸透させる努力が必要ということである。

#### 委員

これからも、まちづくり、地域づくりに重点をおき、市民が楽しく過ごせるまちづくりに関わっていききたいと思う。

#### 委員

先ほどの意見と同じで、市民情報交流センターに関しては、場所を知らない方が大半だと思う。コピー機利用の施設になっている。センターの利用や機能などを考える必要がある。

「地域ビジョンの策定」について、先日、地域で集まりがあった。全戸配布で参加を呼びかけたが、若いご夫婦の方が一組いたが、現在委員に選ばれている方が中心だった。若い人たちの参加が欠けており、これがない限り動かないところは多いと思う。ビジョンづくりも、会議で面と向かわなくても、ITを活用するような、若い人も参加できるように元気にするのが大事と思う。

#### 会長

色々な地域で言われていることである。

#### 委員

「地域ビジョンの策定促進」の関連意見として、地域をまたがる問題が色々ある。例えば、川の問題など。それから、町おこしのために外部から来る人たちのトイレや駐車場など、その地域住民だけではなく、総合的な視野で対応することが必要なものもある。

また、「よりふさわしい主体での公共サービスの実施」について、これまでの関連意見において、施設管理について委託等の検討することが必要とある。コスト面ばかりを重視す

ると安全対策等で危惧される面もある。具体的には、夏見のテニスコート付近の大きな樹木が腐り、ひっくり返るなど、安全点検が十分ではないと生涯学習室に申し出たりしている。業務委託の場合、コストと安全対策の兼ね合いの点で留意が必要と思う。

それから、「地域SNS」とは何か。

会長

「地域SNS」は、ソーシャルネットワークサービスのこと。分からない人がたくさんいると思う。

委員

「指定管理者制度の活用」について、管理者が頻繁に変わるとノウハウが抜け落ち、事故が発生する可能性もある。業務委託が継続されると学習効果があり、コスト軽減につながる業務のやりくりも可能となる。そういう配慮も必要ではないか。

また、「職員提案制度の充実」について、市政一新会議でも、職員提案の具体的な内容を提示いただき、この会議で検証することも考えてはどうか。

最後に、「市立病院の経営健全化」について、目標と実績をフォローし、対策を継続いただきたいと思う。

会長

いただいた意見をフォローすると、まず、「地域ビジョンの策定促進」について、旧の自治会長や区長の負担が重く、輪番やくじ引きで役員等を選ぶという実態があり、役員やボランティアとして関わるにあたってのインセンティブ開発が必要ではないか、その辺りについて、何か報いのある仕組みが必要ではないかということ。

それから、女性と若者の参加がもっと得られる方策を開発しないと先細りになり、地域づくり委員会という枠はつくったが中身に耐用年数がくる、その点をもう少し真剣に考える必要があるという意見があった。大学生や高校生などの若者や女性が関わっているところには、元気がある。この件は、真剣に考えないといけない。

また、地域をまたがる問題、あるいは市全体の問題の地域ビジョンへの具体的な反映は、ビジョンの中に書きこみ、地域でないとできないことと行政でなければできないことを仕分けすれば良い。特に、川の問題は、地域でできることは河川掃除ぐらいで、河川開発・改修となれば、行政の仕事となる。トイレ設置等の話しは、行政課題であり、地域でという話しではない。

市民情報交流センターについては、認知度を高めないといけないという意見があった。

次に、事務事業委託については、効率性の追及により安全・保守点検がおろそかにならないよう留意してほしいという指摘があった。意見のあった公園の管理は、どのようになっているか。

行政改革推進室長

中央公園の管理は、体育館などと総合的に指定管理者制度を導入している。

会長

倒木処理など安全に関することは、業務仕様書の中に入っているか。

行政改革推進室長

入っている。

会長

そうすると、直接責任は指定管理者となる。指定管理者で、安全面は仕様書の最初に出てくる事項であり、互いに取り決めをきちっとしていると思う。行政責任か管理者責任か、施設改修や破損箇所の修繕など細かに取り決めるため、市、管理者のどちらに申し出ても良いと思う。

委員

指定管理者に申し出ても、市に声が届いていないようである。

会長

どちらも責任を取らないといけないので、どちらに申し出ても構わない。  
それから、「地域SNS」の意味がわからない。

行政改革推進室員

パソコンや携帯電話を使い、インターネット内の日記や電子掲示板を利用してまちづくりなど色んな活動に参加いただく、また、行政情報や地域情報などを入手できるシステムである。

会長

それから「指定管理者制度の活用」で、経済性ばかり追及し、管理が変わった際、結果的に人材・ノウハウが消えるリスクも指摘されている。特に、専門的なノウハウを有する人材がいる施設は、指定管理者制度に移行する際、非常に慎重にやる必要があり、施設形態や内容によって、峻別する方が良い。何でもコストダウンではなく、同じコストならパフォーマンスの高いほうを選びたい。しかし、最終的に人的・技術的ストックが消失・散失する考え方はやめるという視点は入れてもらいたい。今日のコメントとして入れておいてほしい。

会長

それから、花火大会の意見について、民間実施のものか。

委員

大きなものは毎年同じ地域で実施されるが、各地域の自治会も各地域で独自に実施している。各自治会が一堂に集まり出店し、その結果を、各自治会に持ち帰るような仕組みにすると、より名張市全体の祭りというかたちになるのではないかと考える。過去に、市民

総踊り大会があり、協賛企業が出店していた記憶がある。そのようなかたちであると、市民全体の祭りというようなイメージがある。

会長

各自治会が独自に花火を打ち上げられる財力等があるならば、合同し、また出店も行い、その収益等を各地域に持ち帰るようにしてはどうかということか。

委員

そうである。

行政改革推進室長

ここ数年の間に、祭りなどのイベントにも、ゆめづくり地域交付金を活用しているという地域が多くある。そのようなことから、各地域で独自に花火をあげるような状態もある。

次の段階に向けて、“できる事業”から、“しなければならない事業”や“地域課題の解決に向けた事業”への転化を呼びかけている。また、各地域が塀をたてるのではなく、連携の必要性が出てくるため、名張全体としてはどうしていくことが良いのか、そのようなことが見出せるような空気、土壌づくりが、今の段階と考えている。

会長

祭りの正式名称は何か。

行政改革推進室長

名張川納涼花火大会で、70 数年の歴史があり、名称は少しずつ変わっている。

実行委員会形式で開催し、桜まつりも同様に、市も協力しながら、民間主催で開催している。花火大会は市も補助金も出しているが、桜まつりはほとんど自力で開催している。

名張川納涼花火大会も名張地区の祭りという位置づけではなく、名張の資源の再発見として皆さんが見出していくと、そのようなかたちになっていくと考えている。

会長

行政補助金はどれくらい出ているか。

行政改革推進室長

以前は、300 万円くらいであったが、減額してきている。

会長

市政一新市民会議の委員より、名張市の全住民がそこへ顔出しできる祭りの方が、賑わいがあるという提起があったということである。

行政改革推進室長

そうです。市民の皆さんから協力を頂き、花火を打ちあげるコーナーもあり、良いかた



ちで、広めていくことが大切であると考えている。

会長

他所では、スポンサー名だけでなく、メッセージを紹介するような花火が打ち上げられている。

行政改革推進室長

そのあたりでは、イベント等の見直しという項目もある。

会長

見直しというと否定的に聞こえる。

行政改革推進室長

より有効に、もっと発展するような尺度ということで考えている。

会長

それから、取組項目の連動性について、意見をお聞きしたい。

行政改革推進室長

いただいたご意見は以前より抱いている部分であり、それをどう表現するか迷っている。横断的に、ひとつの項目は複数の項目に関連することをあてはめたいと考えている。ひとつの項目を進める上で、別の項目とどう関連し、どのような働きがあるのか、絶えず全体を見る習慣をつけていきたい。

ただ、紙に表現すると、ひとつの基本項目に4つの項目があるというツリー状になってしまう。全ての項目に必ず関連項目があり、それを意識しないと、形式上進んでも結局は有効でなかったりすることもあり、完結編では、その点が最も重要になってくると考えている。

会長

平成22年度の計画欄や備考欄を設けても良いので、関連する取組項目を再掲してはどうか。必ずきっちりと整合性のあるものではなく、関連していることを見せる方が良い。相互関連の記述が多ければ多いほど、重要政策ということになる。

行政改革推進室長

事務事業の有効性総点検は、全ての項目に関連すると考えている。

会長

以上いただいたご意見を加えて、微調節をお願いしたい。

会長

完結編については、本日議論していないが、前回までの議論が十分に反映されていると  
いうことで理解し、承認というかたちでよろしいか。

また、本日いただいたご意見は、推進計画に反映すべきご意見であった。地域づくり組  
織の今後の発展やNPO支援、センターの認知度向上など、大変大事なことでもあるので、  
各所管に出された意見を伝え、取組強化をお願いしたい。

### 3. その他

今後、プログラムの推進状況や取組などについて説明報告やご意見等をいただくにあたり、平成22年度4月以降の会議は、3~4ヶ月に1回開催したい旨を事務局より説明。

次回会議は、平成22年6月24日(木)13:30より開催予定。

#### 会長

市民会議では、市長になったつもりで意見をお願いしたい。この場は、経営評価委員会  
であり、消費者の立場ばかりで発言するのではなく、経営者の立場で発言することを願  
いしたい。

あれもしろ、これもしろ、何でもしろというのが、以前の名張の状態であった。限られ  
た資源を振り向けて、どういう再生産に向けるかという発想である。

また、地域づくり組織への若者参加は、持続可能な発展に向けての厳しいご指摘であり、  
重点目標である。

以上